

1 単元名 作家と作品をかかわらせて読もう「宮沢賢治」

2 目標

- 作家と作品のかかわりに興味をもち、作品を読み紹介しようとしている。
- 読んだ作品の感想や、作家と作品のかかわりなどをまとめ、ポスターに書くことができる。
- 叙述に即して、宮沢賢治の理想や生き方について読み取ることができる。また、作家の生き方や考え方や作品をかかわらせながら、読むことができる。
- 言葉の使い方が適切かどうかについて関心をもつとともに、仮名遣いに注意して正しく書くことができる。

3 単元について

(1) 教材観

本教材は、学習指導要領の読むことア「自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読むこと」イ「目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること」エ「書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかき読むこと」をねらいとして構成されている。宮沢賢治の伝記を取り上げ、その行動や考え、生き方を読み取りながら、作品とかかわらせて読みを広げ、主体的な読みにつなげていくことができる教材である。

キャリア教育の視点から考えると、いろいろな生き方があることを理解し、自分が必要な情報を探し活用する、情報活用能力を育成する。

(2) 児童の実態 (在籍人数：*人) (調査実施日：*月*日 対象*人)

＜意識調査＞		
1	宮沢賢治が書いた「注文の多い料理店」を読んでどうでしたか。簡単に書いてください。	おもしろかった *人 不思議な話だった *人 楽しかった *人
2	宮沢賢治について知りたいですか。	はい *人 いいえ *人
3	読書をするときに、作家と作品のかかわりを意識して読んだことはありますか。	ある *人 ない *人
4	ポスターセッション（一人で作成、発表）は好きですか。	好き *人 あまり好きではない *人 ポスターにまとめることが楽しい *人 ポスターにまとめることが難しい *人 いろいろな発表が聞ける *人 発表が不安 *人
＜実態調査＞ 叙述に即して読み取ることができる。(7月単元「ヒロシマのうた」(物語文)における調査)		
A	十分満足できる *人	B おおむね満足できる *人 C 不十分 *人

意識調査から、ほとんどの児童が「注文の多い料理店」をおもしろいと感じ、作者についても知りたいと思っていることが分かる。読書をする際に、作品の登場人物について考えて読んでいる様子は普段の読書記録からうかがわれるが、作家と作品のかかわりを意識して読んでいる児童はいなかった。また、ポスターセッションをあまり好きではないと感じている児童が多く、その理由は、ポスター作りや発表に対する苦手意識であった。これは、個人でポスターセッションを行う機会が少なかったことや、ポスターのまとめ方に対する不安があるためと考えられる。実態調査の叙述に即して読み取ることについては、ほとんどの児童が正しく読み取ることができている。

(3) 指導観

児童は第5学年時に、人物のしたことや出来事をまとめ、考えや生き方を考える学習をしている。そこで、本単元ではこの経験を生かし、叙述に即して年表を作成し、作者の表現と賢治の理想をつないで考えられるように支援していく。そして、賢治の考え方や生き方について考える際には、自分の生き方と比較させ、自分の立場からどのように考えるのかについても交流させたい。また、作家と作品をかかわらせながら読む学習は初めてなので、5年時に学習した「注文の多い料理店」を扱い、実際に作家と作品をかかわらせて読む学習を取り入れる。そしてポスターセッションでは、児童の苦手意識を軽減するため、ポスター作りのマニュアルを活用させたり、書く必要のある事柄をイメージシートに整理させたりするとともに、ワークシートを活用させ、ポスターに書かれている内容を理由や根拠を示して説明する発表原稿作りができるよう支援したい。さらに発表では、相互評価カードを活用し、多面的に振り返ることができるよう指導していきたい。

学校教育指導方針の「読んで書く力の育成」という努力事項を踏まえて、目的に応じて自分の立場から意見や報告を書き、理由や根拠を示しながら説明する学習を充実させたい。

4 単元の指導計画 (10時間扱い) ○が本時

次	時	学習内容	関	話	聞	書	読	言
1	1	全文を読み、初発の感想を話し合い、学習の見直しをもつ。	○				○	
2	2	賢治の生まれた環境や行動、願いや理想について年表に整理する。					○	
	3	賢治の考え方や生き方について、自分の考えを発表し合う。					○	
	④	賢治の理想や生き方と作品とのかかわりについてまとめ、話し合う。					○	
3	5・6	作家の生き方と作品のかかわりについて考えながら、賢治の作品や他の作家の作品の中から読みたい作品を選んで読む。	○				○	
	7・8	選んで読んだ作家と作品を紹介するポスターを作る。					○	
4	9	作成したパネルの内容をよく伝えるための発表原稿を作り、練習する。					○	○

5 本時の指導

- (1) 目標
- 賢治の考え方や生き方と作品とのかかわりについて、自分の考えをまとめ話し合うことができる。
- ＜キャリア教育の視点＞
- 2-① いろいろな生き方があることが分かり、問題解決をするために、自分が必要な情報を探し、活用することができる。
- (2) 本校の学校教育目標との関連
- 「自ら学び自ら考える」という学習面での学校教育目標に対して、以下のような学習指導の具体的な工夫を行う。
- ・ 少人数グループで話し合う場を意図的に取り入れることにより、児童全員が自分の考えを発表する機会を確保し、課題解決や話し合いに対する意欲の向上を図る。
- (3) 準備・資料
- ・ 短冊 ・ ワークシート型カード(以下カードと称す) ・ ヒントカード ・ 振り返りカード
- (4) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
1 本時の課題をつかむ。 賢治の考え方や生き方と「注文の多い料理店」とのかかわりを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までにまとめた賢治の考え方や生き方を短冊を使って振り返ることで、本時の課題に対する意欲を高める。 ・ 本時は賢治の考え方や生き方と「注文の多い料理店」をかかわらせて読む学習であることを確認する。
2 「注文の多い料理店」を黙読し、カードに、賢治の考え方や生き方が表れている叙述や場面を書き出し、そこを選んだ理由をまとめる。 【考えの根拠を明確にする】 (1) 「注文の多い料理店」の中で、賢治の考え方や生き方が表れている叙述や場面を書き出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「注文の多い料理店」を黙読する際には、賢治の考え方や生き方が表れている叙述にサイドラインを引きながら読ませる。 ・ 賢治の考え方や生き方と作品とのかかわりを明確にするために、自分の考えの根拠となる叙述や場面を提示し、その理由を作者の解説を引用したり、自分の言葉で伝えたりすることを確認する。 ◎ 書き出した叙述や場面と賢治の考え方や生き方がつながらない児童には、賢治の考え方や生き方の短冊をまとめたヒントカードを活用させながら、一緒に考えをつかませる。 ◇ 次のグループでの話し合いで、児童の読みを比較しやすくするため、一つの場面や叙述に対して1枚のカードを使って考えを記入させる。 ☆ 賢治の考え方や生き方と作品とのかかわりについて、自分の考えをまとめることができたか。(カード④) ◇ 学び合いの効果が高められるよう、グループ編成については、理解度について均等に分けられるよう配慮する。 ◇ 話し合いの流れを確認し、全員に見通しをもたせるとともに、考えを聞く際には、自分の考えと比較しながら聞き、感想に生かすよう助言する。 ◎ 話し合いが終わったグループには、他の叙述や場面にも賢治の考え方や生き方が表れていないかをグループで考えさせる。 ☆ 賢治の考え方や生き方と作品とのかかわりについて、話し合うことができたか。(話し合い、カード④)
3 賢治の考え方や生き方と「注文の多い料理店」とのかかわりについてグループで話し合う。(A・B・C3人グループで実施) (1) カードを提示して、考えを発表し、質問や感想をもらう。 (2) 同じ叙述や場面を選んだカードがあれば類型化し、とらえ方の違いを確認する。 (3) 発表を聞いて参考になった点や自分の考えが変わった点を、自分のカードに、青色で記入しておく。	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 学びの質を高める工夫 ◎個への対応 ☆評価の観点
4 本時の振り返りをする。 グループでの話し合いから、作家と作品をかかわらせて読むことについて、振り返りカードに感想をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作家と作品をかかわらせて読むことのおもしろさや、読者によってさまざまなとらえ方があることに気付かせ、今後の学習の意欲を高める。